

立命館宇治中学校・高等学校 2023 年度学校目標年度末報告シート

教育目標

立命館宇治中学校・高等学校は、立命館の建学の精神「自由と清新」と、教学理念「平和と民主主義」に基づき、卓越した言語能力に基づく知性と探究心、バランスのとれた豊かな個性、正義と論理に貫かれた寛容の精神を身につけた未来のグローバルリーダーを育成し、世界と日本の平和的発展に貢献する。

中期目標

- I. 豊かな教養と確かな学力を身に付け、主体的に学び・考える姿勢をもった生徒の育成
- II. 高い外国語運用力と広い視野をもって、異文化を理解できる能力をもった生徒の育成
- III. 高い倫理観と規範意識を備え、強い責任感で社会や世界に貢献できる生徒の育成
- IV. 向上心を持って自己研鑽に努め、協働のもと新しい学校づくりを目指す教職員集団の形成
- V. 地域・保護者との信頼関係に裏打ちされた学校ブランド力の確立と生徒募集力の向上
- VI. 魅力ある教育を支える体制や生徒が安心・快適に学ぶことができる学習環境の整備

I. 豊かな教養と確かな学力を身に付け、主体的に学び・考える姿勢をもった生徒の育成

中位目標		達成目標（当年度目標）	評価
1	自立した学習者の育成	(ア) 学力指標の向上とのための新しい観点別評価制度の構築と運用	◎
		(イ) 生徒が能動的に参加する授業スタイルへの転換	○
		(ウ) 学習を支えるさまざまなリソースを活用した学習モデルの構築	○
2	特色ある教育プログラムの開発と普及	(ア) 学園内外との連携による価値観を揺さぶる教育	◎
		(イ) 中高6年間を通した「探究」プログラムの研鑽	◎
		(ウ) WWL 拠点校として構築したネットワークと経験の継承	◎
		(エ) 中学 IPC 教育の実践と高校 IB との連携	◎
		(オ) 新しい教育課程の開発	○
3	大学と連携した進路指導	(ア) 大学・学部との連携講座の充実	○
		(イ) 適切な進路指導の提供と支援	○
		(ウ) 海外大学への進路指導の対応強化	◎

II. 高い外国語運用力と広い視野をもって、異文化を理解できる能力をもった生徒の育成

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	異文化体験の充実	(ア)	安全に留意し、質の高い留学派遣の実現	◎
		(イ)	ポストコロナにおける海外研修旅行の企画運営	○
		(ウ)	COVID-19 の制限のある中での留学生の受け入れ	◎
		(エ)	学校内外での新たな異文化体験の機会の模索	○
2	帰国生支援	(ア)	帰国生へのきめ細やかなカウンセリングの実施	○
		(イ)	多様な背景を持つ帰国生への学習支援	◎
3	高い語学運用能力の養成	(ア)	高い語学力を持つ生徒の更なる引き上げ	○
		(イ)	高校3年生 TOEFL430 点の全員達成	△
		(ウ)	英語を活用した取り組みの開催	○
		(エ)	第二外国語の取り組みの推進	○

III. 高い倫理観と規範意識を備え、強い責任感で社会や世界に貢献できる生徒の育成

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	オープンマインド醸成と学校全体の一体感	(ア)	ダイバーシティ&インクルージョンの推進	○
		(イ)	挨拶、装い（制服着用）、清掃、持ち物管理など、周囲に配慮できる指導の推進	△
		(ウ)	学校への帰属意識と誇りを実感できる取り組みの実施	○
		(エ)	地球市民として SDGs を念頭に活動・生活できる指導の推進	◎
2	生徒が自ら主人公と考える学校運営	(ア)	生徒会・ホームルーム運営委員会など生徒の自主活動組織の活性化	◎
		(イ)	学園祭など、生徒が自発的に運営できる企画の推進	◎
3	生徒の自主活動・貢献活動	(ア)	生徒相互の奮闘を励まし合える関係づくり	◎
		(イ)	科学的で合理的な自主活動指導方法の研究	△
		(ウ)	学業・学校生活との両立できるバランスの取れたクラブ運営	○
4	人権意識の育成	(ア)	平和、人権、環境を考える取り組みの実施	○
		(イ)	インターネット・SNS との関わり方を学ぶ機会の提供	○
		(ウ)	いじめや非行などを許さない意識醸成と教員による早期発見・対応	○

IV. 向上心を持って自己研鑽に努め、協働のもと新しい学校づくりを目指す教職員集団の形成

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	成長する教員集団	(ア)	研修（校内・校外）への参加	○
		(イ)	研究授業・公開授業・研究会の実施	◎
		(ウ)	課題を共有し互いを支え合うことができる教員集団	○
		(エ)	生徒指導力と保護者対応力の向上	○
2	働き方改革の段階的進行	(ア)	チームワークと仕事の合理化	○
		(イ)	休日・休養日の確保	○

V. 地域・保護者との信頼関係に裏打ちされた学校ブランド力の確立と生徒募集力の向上

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	地域連携	(ア)	土曜市民講座・スポーツ教室・小学生体験講座の実施	○
		(イ)	公共交通機関利用マナー向上	○
2	保護者連携	(ア)	丁寧な懇談会・説明会の実施による相互理解の促進	◎
		(イ)	保護者アンケート・生徒アンケートによる実態把握	○
3	同窓会	(ア)	卒業生のつながりを形として見せる	◎
		(イ)	卒業生の活躍の広報	○
4	生徒募集	(ア)	附属3校の共同歩調を強めた取り組みの展開	△
		(イ)	国内外の募集活動の工夫	○
		(ウ)	本校の魅力を伝えるパンフ・WEB 広報の強化	◎
5	リッツキッズ	(ア)	高い能力を持つ英語学習者の誘引	○
		(イ)	質の高い低年齢教育の実現	◎
		(ウ)	本校生徒募集への接続強化	○

VI. 魅力ある教育を支える体制や生徒が安心・快適に学ぶことができる学習環境の整備

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	生徒の心と体の健康を守る	(ア)	保健室を中心としたココロとカラダの健康に配慮した連携	◎
		(イ)	教育相談・HAT・カウンセリング体制づくり	○
2	学習環境の整備	(ア)	生徒・教職員が安全安心に過ごせる施設環境の整備	○
		(イ)	学習環境改善と機能の合理化	◎
		(ウ)	修繕・危険箇所の集約	◎
3	リスクマネジメント力の強化	(ア)	避難訓練の実施と防災対策	○
		(イ)	生徒引率における安全確保	○
		(ウ)	迅速な事故対応	○
4	安心安全の生徒寮運営	(ア)	寮生の健康管理と安心と安全を第一にした寮運営	◎
		(イ)	学習する雰囲気づくり	△
		(ウ)	共同生活者としての連帯を生む自治組織づくり	○
		(エ)	新生徒寮の建設具体化に向けた政策検討	○

達成状況

新型コロナウイルス感染症が5月に5類に移行後、さまざまな取り組みを平時に戻すとともに、コロナ禍で培ってきたスキルを併用し、ポストコロナとしての取り組みは概ね順調に実施することができた。体育大会・体育祭、興風祭や学術祭、探究公開研究会など、保護者や学外来校者を招いた生徒の活動の発表の場も制限をなくし、本校の教育を十分に発信できたと思われる。

ただ、季節性インフルエンザの感染拡大は例年より大きく、学級閉鎖などの措置を複数回行うこととなった。

高校では新学習指導要領施行2年目となり、観点別評価制度の実施も進み、3つの観点での評価は適切に行われている。

中高ともに探究の学びは、中学での新プログラムの導入や高校でのプロジェクトの活性化、学外への発信も含め、その取り組みは充実したものとなった。

海外への生徒派遣についても、概ね国境が開いたため、ワクチン接種が求められた中学研修旅行への参加制限を除き、IMコース留学やGCPも含め、活発に派遣を実施することができた。

改善策

モラルや情報リテラシーに伴う生徒指導課題が多く発生した。関係機関との連携による対応を進めることができたが、生徒へのモラル研修の実施や、教員に対しても情勢把握や指導スキルの改善を図りたい。

教員サイドでも、個人情報の誤配信や紛失の案件が数多く発生した。公的文書やデジタル情報の管理も含め、あらためて教員への研修などを通じた管理徹底と意識改善が求められる。

また、2024年度の記念式典を中心とする周年事業の具体的実施に向けての検討が急がれる。

2026年度開始予定の教育課程改定に向け、少子化、働き方改革、探究の学びの更なる深化、海外からの留学生受け入れと海外への進学など、これからの立命館宇治を見据えた議論を行っていき

学校関係者評価に関する事項

委員会 構成	亀田晃巖 氏（唯明寺住職）， 山仲修矢 氏（教育後援会会長）， 出雲健彦 氏（鳳凰会会長）， 宇和村哲晃 氏（保護者会会長）， 奥野寛 氏（保護者会副会長）， 谷康平 氏（保護者会副会長）， 鴻池美枝子 氏（保護者会副会長）， 横澤広久 氏（立命館一貫教育部部長）， 森田真樹 氏（立命館大学大学院 教授）， 浮田恭子 氏（元副校長）， チャールズ・フォックス 氏（元校長）， 越智規子（校長）
開催日程 主な議題	第1回：2023年7月10日（月）09:30～12:00「公開授業視察」「2023年度活動方針」 第2回：2024年3月28日（木）10:00～13:00「2023年度学校総括について」
評価・改善 事項	